

春と夏では、”もよう”が違う？

4月も終わりごろになると、たくさんの蝶々たちが、姿を現すようになります。春が深まり、たくさんの花をついている学校の野草たちの蜜を求めてやってきています。先日は、少し小柄なナミアゲハチョウが、ハルジオンの花などを渡り歩き、ツツジにはクロアゲハが、そして早くも、ヤマトシジミが、カタバミに卵を産みに来ました。



ヤマトシジミ R7,4,17 ひまわり農園

■サナギ以外で、越冬する種類もいます。

蝶は、「卵 ⇒ 幼虫 ⇒ 蛹 ⇒ 成虫 ⇒ 産卵」という生涯サイクルで、蛹という時期がある完全変態をする昆虫です。この生涯サイクルは、およそ1か月程なので、春～夏～秋にかけて、4～5回も世代が進みます。そして多くの種類は、蛹で越冬をしますが、タテハチョウなどは、枯れ葉に紛れて「成虫」のままで、国蝶のオオムラサキは「幼虫」で落ち葉に紛れて、そしてシジミチョウの仲間には「卵」で越冬するものもあり、千差万別ですね。



モンシロチョウ R7,4,15 力の庭

■今見かけるアゲハとモンシロは「春型」

蝶の中には、成虫になる時期により、大きさや模様、色などの形態に違ができる種類がいて、それぞれ春型、夏型と呼ばれています。秋型を紹介する図鑑もありますね。春型のナミアゲハは、小型で淡い黄色をしており、モンシロチョウもやや小型で、モンシロチョウの特徴である羽の黒い紋が薄く、はっきりしない個体もあるようです。



ナミアゲハ R7,4,29 学校周辺

●ナミアゲハ（春型） 鱗翅目 アゲハチョウ科 アゲハチョウ属

日本全国で生息する種で、アゲハ蝶といふと、この種のことを指すことが多いです。似た種類にキアゲハがありますが、蝶は、種類により幼虫が食べる植物が違い、ナミアゲハは、キンカンやカラタチ、サンショウなどのミカン科の木に卵を産みに来ます。キアゲハは、アシタバやニンジン、セロリなどのセリ科です。右の写真のナミアゲハは、鳥に食べられそうになったのか、後翅がちぎれているようです。

■たぶん、モンキチョウの雌？ シロチョウ科の区別は難しい…

春、黄色い菜の花畠の上を、ヒラヒラと白い蝶々が飛んでいるのをみかけると、モンシロチョウだと思ってしまいます。シロチョウ科には、モンキチョウやツマキチョウ、スジクロシロチョウなど、よく似た種類が多くいて、さらに春型や夏型もあり、区別が難しいです。スジクロシロチョウは名の通りに羽に黒い筋が目立ち、



モンキチョウ R7,4,12 学校周辺

ツマキチョウは羽の先端付近が黄色をしています。モンキチョウは名が示す通りに黄色い羽に、モンシロチョウと同じように黒い紋がありますが、雌は白い個体も多く、モンシロチョウも翼のへりの部分が少し黄色を帯びているものもあり、本当にややこしく、特に、モンキチョウの雌との区別は、難易度が高いです。